

文章実作教室 エッセイ（随筆・随想）を書きたしかな一步

本年度（令和元年）の課題は「心・こころ」

「やさしい文章実作教室」が6月6日から始まりました。今年は、選挙の関係で、おそくまで教室の予定が立ちませんでした。やっと、みずほ台コミュニティセンターに確保できました。これから、毎土日5回にわたって開講されます。

受講者は18名と例年よりすくないようです。「富士見の歴史講座」と同日になったこと、講座案内に「文章実作教室」を明記したこと（「作品」を提出してもらいますよ）と、はっきり謳ったことなどによるのでしょうか……。

半数は例年の顔ぶれです。残る半数はそうとうの文筆力のもち主でしょう。

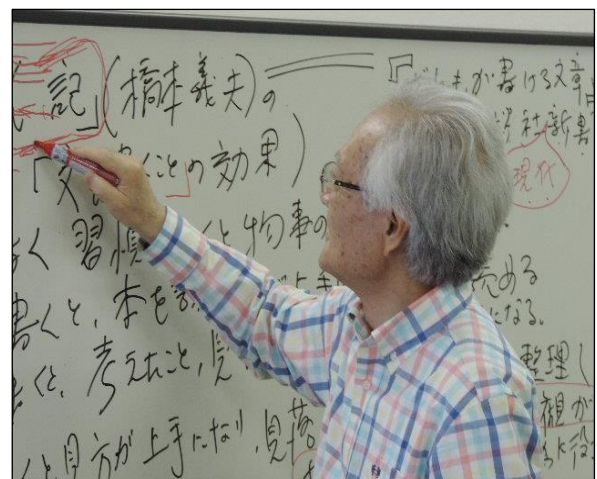
前年度の国語講座に、小学1年生のAちゃんが参加するという椿事がありました。ところが今回の文章教室にも、平均年齢70なかばの高齢者まじって、20代の女性Kさんが参加しています。これもまた椿事です。

さア～て、さっそく頂きました。本年の「お題」は「心・こころ」です！

作品の「題」のなかに「心・こころ」がはいっていけばいいようです。『逆引き広辞苑』で「ろここ」を調べると、下付きの「～こころ」が313項目見つかりました。提出は1週間後です— みなさん、なんとか、なりそうですね。



講師の永杉徹夫氏。2019年度、『文芸埼玉』の選考委員（小説・エッセイ部門）。エッセイスト。



ひとは70歳になっても80歳になっても、褒められると嬉しい。永杉氏は、希代の「ほめじょうす」。